

ISO/TC 8(船舶及び海洋技術専門委員会)直属のWG担当分

議長: Mr. Yanqing Li(中国)、幹事国(中国)

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
TC8	ISO/WD 3725	Ships and marine technology -- Ballast water sampling -- Verification testing protocol for compliance monitoring devices	船舶及び海洋技術 - バラスト水のサンプリング - 遵守監視装置のための検証試験プロトコル	<p>バラスト水管理条約が定める排出基準を遵守していることを判断するために、バラスト水の船上排出を迅速に評価するように設計されたコンプライアンスモニタリング装置に適用できるプロトコルについて取り纏めている。コンプライアンスモニタリング装置は、バラスト水管理(BWM)条約で定義されている1つまたはそれ以上の生物または生物サイズ部類を対象とする場合がある。</p> <p>2019年9月から12月にかけてNP投票が実施され、特段の反対なく承認された。(日本は賛成回答) ISO/TC 8/WG 12ジュネーブ会議(2020.01.13-17)では、主な以下の内容の審議が行われた。 1) 本規格が規定する試験が船上試験かラボ試験のいずれかを焦点とするか議論された。この結果、コスト面からラボ試験を要求事項とするべきという声が多く、ラボ試験を焦点とした規格とすることに合意が得られた。船上試験に関する規定は、参考附属書に移行されることとなった。 2) 日本は、Independent testing organization(独立した試験機関)という単語について、一部の国のみが存在する特定の試験機関を指す可能性があるため、具体的な定義の作成を米国に求めた。この結果、簡易分析装置の製造者と利益上の対立がない試験機関という定義がドラフトされた。 審議の終了後、WG 12コンビーナ(米国)は、本件の規格開発期間が短いことから、早期の進捗が必要である旨を発言した。また、コンビーナは、簡易分析装置の認証手法に関する文書がIMO/PPR 7に提出されているため、同IMO会議の審議の様子に鑑み、今後の対応を検討すると発言した。</p> <p>こうした経緯のもと、CD段階を省略する投票へ付す文書を作成するためのWEB会議が、8月31~9月4日、10月15日~16日の2度にわたり開催された。これらWEB会議の審議結果に基づく原案を提案国である。</p>	2020.06.30 TC 8/WG 12内エキスパート間意見照会 〆切 CD省略投票に向けた原案作成中	—
TC8	ISO 11711-1:2019	Ships and marine technology -- Aquatic Nuisance Species -- Part 1: Ballast water discharge sample port	船舶及び海洋技術 - 水棲有害生物種 - 第1部: バラスト水排出サンプリング装置	本規格は、バラスト水を排水する前に排水パイプから代表サンプルを得るために要求されるサンプルポートの設計および搭載に関する指針を取り纏めている。	2019.05	—

TC8	ISO/DIS 11711-2	Ships and marine technology -- Ballast water sampling and analysis -- Part 2: Ballast water sample collection and handling	船舶及び海洋技術－バラスト水サンプリング及び分析-第2部:バラスト水サンプルの収集及び取扱い	<p>船上におけるバラスト水のサンプル収集及び加工に必要なサンプリング装置の選定及び使用に関するガイダンス。サンプルプローブ、代表的なサンプリングの制約を満足するための制御能力を有するサンプル収集装置の設計に関する規定も含む。</p> <p>2019年11月18日×切で、本件を審議するWG 12のエキスパート宛に意見照会が実施された。この結果、日本、米国、中国、韓国、フランス、スイス、ノルウェーから、計60ページを超える意見が提出された。</p> <p>ISO/TC 8/WG 12ジュネーブ会議(2020.01.13-17)では、米国・中国・スイス・フランスが事前に提出した意見を中心に議論を行った。日本として特に気になる点としては、サンプル水の抽出に用いるサンプリングプローブを試験の度に洗浄・消毒することとなっているが、実運用ではプローブは船に装着したまま用いているため、今後の意見の出し方について国内で検討する必要がある。</p> <p>2020年5月25日を投票期限として実施された、本ISO規格のCD段階を省略するための投票は特段の反対なく承認された。この投票で提出された各国の意見は、2020年8月31日～9月4日に開催されたWG 12ウェブ会議で審議された。この後、同ウェブ会議の審議結果に基づいた原案が作成され、2021年2月14日を回答期限としたDIS投票が実施された。この投票の結果、特段の反対なく承認された。日本は、編集的意見を提出のうえ、「賛成(意見付き)」回答を実施した。</p>	DIS投票承認 2021.02.14	—
TC8 SC11から 移行	ISO 15849:2001	Ships and marine technology -- Guidelines for implementation of a fleet management system network	船舶及び海洋技術－フリートマネジメントシステムネットワークの実施のための指針	<p>船主及びフリートマネジメントシステム(FMS)ネットワーク・コンピュータ・サービスの運用者に、その選定と実施についての概要と、実施の際の指針について取り纏めたもの。</p> <p>この規格には次のものが含まれている。</p> <p>a) 広域ネットワーク、データ伝送サービス及び共通のデータベース設備を含む、一般的インフラストラクチャーに関する指針</p> <p>b) アプリケーションプログラムへのサービスを含む、船上設備に関する指針</p> <p>c) アプリケーションプログラムへのサービスを含む、陸上設備に関する指針</p>	2001.11.01	JIS F 0075:2003 (IDT)
TC8 SC11から 移行	ISO 15849:2001/Amd 1:2003	同上	ISO 15849:2001 追補1:2003	ISO 15849に規定されているSITP(Ship Information Technology Platform)及びLITP(Land-based Information Platform)に適用される場合のアプリケーション・プログラム・インターフェースの設計仕様書の例を附属書Aとして追加したもの。	2003.09.01	同上

TC8	ISO 20519:2017	Ships and marine technology -- Specification for bunkering of liquefied natural gas fuelled vessels	船舶及び海洋技術—ガス燃料船のバンカリング用仕様	この国際規格は、IGCコードによりカバーされない、LNG燃料船に燃料を積むために用いるLNGバンカリング移送システムおよび設備の要件を取り纏めたもの。この標準の範囲は以下の5つの要素を含む。 1) ハードウェア:液体およびガスの接続(フランジ、ホース、ドライディスコネクト、ERSおよび緊急遮断(ESD1/2)) 2) バンカリングオペレーションにおける緊急事態対応の計画立案に資する、操作の手続、通信、個人保護装置(最小機能要件)の要件化。バルブ閉鎖時、メンテナンスおよび検査時の対応も考慮。LNG供給者と船のオペレータ用の要件として、IMOのIGFコードの18.2.3項で定められている燃料取り扱いマニュアルと非常時手順詳細についても定めている。 3) 燃料品質、温度、密度およびネットエネルギー量の測定法および算出法。 4) 作業者の訓練および資格。 5) 適用可能なISO標準および地域規則へ合致させるための液化天然ガス設備の要件 ・また、Bunker safety checklistもAnnexとして掲載。 CCC 2/3/2として本件開発状況をIMOへ報告	2017.02	—
TC 8	ISO/DIS 20519	Ships and marine technology -- Specification for bunkering of liquefied natural gas fuelled vessels	船舶及び海洋技術—ガス燃料船のバンカリング用仕様	2020年3月2日を〆切としたDIS投票段階から審議を始める小改訂着手の投票が承認。 この小改訂による主な修正点は以下のとおり。 ① ISO 21593:2019(船のLNG燃料供給口の急速着脱機構)との整合化: dry-disconnect/connectカップリングの要件(5.5.5項)に関して、ノズルとレセプタクル間の相互接続に関するISO 21593要件の追加。 ② ISO/TC 28で開発が進められているISO 21903: Refrigerated Hydrocarbon Fluids —Dynamic Measurement — Guidance for the calibration, installation and use of flowmeters for LNG and other refrigerated hydrocarbon fluidsへの考慮: 6.2.2項のLNG移送用のコミュニケーションへのISO 21903要件の追加。 ③ 7.1項の対象組織へのマネジメントシステム要求の改訂	DIS投票承認 2021.01.26	—

TC8	ISO 20661:2020	Ships and marine technology -- Cutter suction dredger supervisory and control systems Cutter dredger supervisory and control system	船舶及び海洋技術－カッターサクシオン浚渫設備(システム)の標準化	カッターサクシオン浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国提案】	2020.01	—
TC8	ISO 20662:2020	Ships and marine technology -- Hopper dredger supervisory and control systems	船舶及び海洋技術－ドラッグ浚渫設備(システム)の標準化	ドラッグ浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国提案】	2020.01	—
TC8	ISO 20663:2020	Ships and marine technology -- Grab dredger supervisory and control systems	船舶及び海洋技術－グラブ(掴上げ)浚渫設備(システム)の標準化	グラブ(掴上げ)浚渫設備(システム)の技術要件、試験方法、検査基準、表示、パッケージング、移送およびストレージなどについて取りまとめたもの。【中国提案】	2020.01	—

TC8	ISO 21593:2019	Marine LNG fuel bunkering quick connect/disconnect coupling standard	船のLNG燃料供給口の急速着脱機構	<p>燃料としてLNGを用いる船舶の燃料補給に用いられるカップリングの急速着脱機構に関する要件を取り纏めたもの。この標準は、以下の内容を含む。</p> <p>(1) 一般的な設置とパフォーマンスの要件。 (2) ノズルのための技術的要件。 (3) レセプタクルのための技術的要件。 (4) 標準タイプと寸法。 (5) 基本的な情報を含むカップリングへのマーク。 (6) 水圧試験、動作テスト、衝撃試験及び破断試験の要件等。</p> <p>本件は、IMO/MSC(海上安全委員会)及びCCC(貨物運送小委員会)から、船の燃料供給口のフランジへの急速着脱機構に関するISO規格開発着手がISO/TC8に要請されたことに基づく。</p> <p>TC67/SC9(液化天然ガス用設備及び装置分科委員会)でもSCOPEを全く同じくするNP投票が行われ、可決されたが、TC67議長及び幹事、TC8議長との間に対応が協議され、ダブルスタンダード化を避けるため、TC67/SC9がNPを撤回した。</p> <p>ただし、ISO/TC 67で作成されたISO/TS 18683:2015のAnnex Gで定めているカップリングとこのISO規格案で定めるカップリングとは、寸法が異なるため、互換性はない。</p>	2019.07	—
TC8	ISO/FDIS 22547	Ships and marine technology -- Performance test procedure for high-pressure pump in LNG Fuel Gas Supply Systems (FGSS)	船舶及び海洋技術—LNG燃料ガス供給システム(FGSS)における高圧ポンプの性能試験手順	船舶の燃料ガス供給システム(FGSS)へLNGを移送するための電気モーターにより稼動する補機に備えられる往復ポンプ等機器の性能確認のための試験手順を提案している。	FDIS投票中 2021.04.14 切	—
TC8	ISO/FDIS 22548	Ships and marine technology -- Performance Test Procedure of Ship's LNG Fuel Gas Supply Systems (FGSS)	船舶及び海洋技術—船舶のLNG燃料ガス供給システム(FGSS)の性能試験手順	LNG燃料船の往復動内燃機関へのLNG燃料供給のために製造されるFGSSに関する圧力、流量、気温等の性能試験方法を提案している。	FDIS投票中 2021.04.29 切	—

TC8	ISO/FDIS 23152	Ultraviolet Ballast Water Management System-- Mathematical Modeling and Calculations on Scaling -- RANS-DO Modeling	紫外線バラスト水管理システムスケーリングに関する数学的モデリングおよび計算－RANS-DOモデリング	<p>紫外線バラスト水管理システム(UVBWMS)のスケーリングに関するRANS-DOモデリングの計算方法を取り纏めたもの。数学的モデリングおよび計算は、システム性能に影響を与える可能性のあるパラメータがベースユニットおよびスケールユニットの間で等しくなるようにしている。スケーリングされたユニットの設計は、潜在的にベースユニットの性能要件を満たすことができるとしている。また、本規格はUVBWMS上の離散モデルのスケーリングに適用され、ベースユニットとスケーリングユニットの組み合わせには適用されないとしている。</p> <p>2019年6月に開催のISO/TC 8/WG 12釜山会議及び2020年1月同ジュネーヴ会議において大幅に原案が見直された。本規格案が定める方式が国内メーカーが行う方式と異なることから、これまで日本は特段の意見を提出していない。</p> <p>2020年8月14日を投票期限として実施されたDIS投票は賛成多数で承認された(日本は賛成投票)。現在、同投票に提出された各国意見をベースとして、5月7日を期限としてFDIS投票が実施されている。</p>	FDIS投票実施中 2021.03.12～ 2021.05.07	—
TC8	ISO/AWI 23314-1	Ballast water management systems (BWMS) - Risk assessment - Part 1: General principles	バラスト水管理システムーリスク評価－第1部：一般要件	BWMSが船上に設置される際の、健康およびリスク評価の一般的手法を規定する。また、評価すべき船上のBWMSの構成部品の概要および検討すべき環境を規定する。	2018.10.22 NP投票承認 WD作成中	—

TC8	ISO/CD 23314-2	Ballast water management systems (BWMS) - Risk assessment - Part 2: BWMS using electrolytic methods	バラスト水管理システムーリスク評価及び低減ー第2部: 電解質手法を用いたBWMS	<p>ISO 12100に従い電解質手法を用いたBWMSのリスク評価およびリスク低減を実施する際のガイダンス。ハザードの同定およびリスクの予測及び評価のプロセスの手順や例を示す。</p> <p>2019年11月21日〆切で行われたCD投票は賛成多数で可決された。日本は反対票で回答。また、意見を提出したメンバー国は日本のみであった。</p> <p>ISO/TC 8/WG 12ジュネーヴ会議(2020.01.13-17)では、日本意見を中心に、主に以下のとおり審議が行われた。</p> <p>1)警告アラームの作動に際し、電解質ユニットが検知するリスクの規定について意見交換を行い、「電解質ユニットは適切なアラームを設置すること」と修文。</p> <p>2)(IMOで詳細を審議中の)「コミッショニング」という単語が誤解を誘引するため、BWM.2/Circ.70が定めるコミッショニングとは異なる旨、NOTEを追加した。また、本項目の文体をshouldで統一し、推奨事項とした。</p> <p>現在、2021年4月5日を投票期限として、DIS投票実施中。</p>	DIS投票実施中 2021.01.11～ 2021.04.05	—
-----	----------------	---	--	---	---------------------------------------	---

TC8	ISO/CD 23780-1	Performance test procedure of continuous monitoring TRO sensor in ship use-Part 1: DPD sensors	TRO(バラスト水中の総残留オキシダント)常時監視センサの性能試験手順－第1部: DPDセンサー方式	<p>この規格は、船舶で用いられるTRO(バラスト水中の総残留オキシダント)を常時監視するセンサの性能試験手順を取り纏めたもの。</p> <p>2019年6月に開催されたISO/TC 8/WG 12釜山会議において原案の大幅な見直しを行った結果、意見集約のためのCIB(委員会内投票)を近日中に実施し、その結果を以て、CD投票のための原案に反映することとした。また、同会議において、規格のタイトルを変更した。</p> <p>ISO/TC 8/WG 12ジュネーブ会議(2020.01.13-17)では、日本は主に、「試薬切れ試験」を必須項目として追加することを提案した。試薬は、TROを含む水に加え、残留塩素やその他の総残留オキシダント濃度を測定するために用いられる。TROを含む水への試薬の供給が停止すると、TROの正しい値を検知することができなくなるため、供給の停止時にアラームを鳴らすことにより、試薬切れを防ぐようにすることが、この試験の狙いである。韓国は、技術的に正当な意見を述べないにも関わらず、日本意見の採用を拒んだ(推奨事項としてなら受け入れ可能)。一方、WG全体としては、試薬切れ試験の必要性に一定の理解を示した。</p> <p>2020年10月6日を投票期限とした、CD段階を省略するための投票は、特段の反対及び提出意見無く、承認された。</p>	CD省略投票承認 2020.10.06	—
TC8	ISO/AWI 23799	Ships and marine technology -- Assessment of onboard cyber safety	船舶及び海洋技術－船上サイバーセキュリティの評価	<p>船上でのサイバーセキュリティリスクを評価するための一般的な方法を提供する。それは無線通信と陸上ベースのシステムを除く、船上システム内のネットワーク接続に適用する。その標準は、①用語と定義、②船上のサイバーリスク特定、③サイバー資産評価、④サイバーリスク分析基準、⑤規制措置識別、⑥評価の割り当て、から構成される。</p> <p>NP投票承認後、未審議の状況。</p>	2019.03.21 NP投票承認 コロナウィルス特例による6か月間の作業休止中	—

TC8	ISO/CD 23806	Ships and Marine Technology -- Cyber safety	船舶及び海洋技術－サイ バーセーフティ	<p>この規格は、リスク評価手法によるサイバー安全要件を定めたものであり、SMS (Safety Management System) (ISM Code [国際安全管理コード] で求められている要件を満たす安全管理システム) に組み込んで運用されることを想定したもの。船舶管理者に求められているSMSの策定・実施・維持の活動に併せて運用されることで、サイバー安全の継続的な改善が図られるとしている。</p> <p>これまでの国際審議の結果、NISTフレームワークを基礎として書き直すことになっている。国内での検討はこの書き直しが終了してから行う予定であったが、NISTフレームワークへの書き直しをすることなく、CD skip投票が開始された。ISO様式にも沿っていないことから、NISTフレームワークへの書き直し及びISO様式に基づく修正を求め、日本は「反対」をした。</p>	2020.05.16 CD skip投票 承認	—
TC8	ISO/WD 23807	Ships and marine technology — General requirements for the asynchronous ship-shore data communication	船舶及び海洋技術－非同期 の船陸間データ通信の一般 要件	<p>ISO 19847 で定める船内データサーバー等で収集した船上搭載機器及びシステムからのデータを、非同期で陸側と通信、共有するための要件(機能要件等)を取り纏めたもの。</p> <p>この規格は、船上データサーバーから陸上データサーバーへの船舶間データ通信に関する以下の要件を取り纏めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンドツーエンドの通信品質を測定する方法 ・非同期および同期通信 ・トランスポートの整合性 ・トランスポートセキュリティ(暗号化、認証、承認など) ・データ送信の管理(優先順位付け、ログ記録、通信事業者の認識/管理など) ・通信の最適化(重複排除、圧縮、再開、多重化など) ・ISO 19847を含むがこれに限定されないデータ通信プロトコルへの準拠 <p>また、この文書は以下をカバーしていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データプロデューサー/コンシューマーのセキュリティ(ID管理など) ・通信機器の要件 ・帯域幅や遅延などの性能要件 <p>【日本主導】</p>	NP投票承認 2020.03.17 2019.11 第1回ISO会議 2020.11 第2回ISO会議 2021.03 第3回ISO会議	—

TC8	ISO/AWI 23860	Ships and marine technology -- Terminology related to automation of Maritime Autonomous Surface Ships (MASS)	船舶及び海洋技術－自動運航船(MASS)に関連する専門用語	この規格は、自動化システム自体及びその分類を含む、自動運航船(MASS)の自動化システムの運航過程に関連して、MASSの概念を記述するための専門用語を定義したものの。 この規格の開発情報をIMOに報告するため、ISOはIMO/MSC 101、102および103へISOとして文書を提出している。	2019.02.01 NP投票承認	—
TC 8	ISO/PAS 24438:2020	Ships and marine technology — Maritime education and training — Maritime career guide	船舶及び海洋技術－海事教育及び訓練－海事キャリアガイド	この文書は、ジェンダーによる区別なく、キャリアの拡大に寄与することを目的に、海事業界への就業に当たってどのような業務にどのような学習が必要であるのかをリストに纏めたもの。海事業界の仕事を下位の15の領域に区分し、各々の領域でどのような職業があり、その職に就くためにはどのようなキャリアが必要かをリスト化している。	2020.10	—
TC 8	ISO/WD 24440	Ships and marine technology -- Maritime Education and Training -- LNG Crew Training	船舶及び海洋技術－海事教育及び訓練－LNG船乗組員の訓練	この文書は、STCW要件を満たす訓練機関で用いられる、IGCコード及びIGFコードの対象となるLNG船の乗組員に対する訓練カリキュラムを開発する際に考慮されるべき最低要件及び要件の認証方法を取り纏めたもの。	NP投票承認 2020.08.28	—
TC8	ISO 28004-2:2014	Security management systems for the supply chain -- Guidelines for the implementation of ISO 28000 -- Part 2: Guidelines for adopting ISO 28000 for use in medium and small seaport operations	サプライチェーンのためのセキュリティマネジメントシステム－ISO 28000の実施のための指針－第2部:ISO 28000を中小港湾のオペレーションに適用するための指針	ISO 28000を中小港湾のオペレーションに適用するに際しての指針として自己認証基準を取り纏めるもの。	2014.02.01	—

TC8	ISO 28007-1:2015	Ships and marine technology -- Guidelines for Private Maritime Security Companies (PMSA) providing privately contracted armed security personnel (PCASP) on board ships (and pro forma contract)	船舶及び海洋技術－民間武装警備員を供給する民間海上警備会社に関する指針（及び見積り契約書）	危険海域における海賊対策として乗船させる民間警備員を供給する民間海上警備会社が具備すべき事項を取り纏めたもの。BIMCOが作成した標準契約書を附属書Aとして添付している。 ※ISO 28007として作業が開始されたが、ISO 28007-2の作成作業開始に伴いISO28007-1に変更	2015.04.01	—
TC8	ISO 29400:2020	Ships and marine technology -- Offshore wind energy -- Ports and marine operations	船舶及び海洋技術－洋上風力エネルギー－港湾及び海洋での作業	鋼製基礎およびコンクリート製GBS (gravity base structure)、鋼製基礎パイル、サブシーテンプレート、風力タービン発電機の構成部品である鋼製タワー、ナセル、羽根等のオフショア構造物の港湾及び海上での作業に係る要求事項及び手引きを取り纏めたもの。 この規格は、追加モジュールの搭載や構成部品の交換といった既設構造物の変更にも適用可能である。なお、この規格は海洋環境にさらされない陸上の建設作業、オフショア構造物の供用期間中の海上でのルーチン作業や潜水作業には適用できない。	2020.05	—
TC8	ISO 29404:2015	Ships and marine technology -- Offshore wind energy -- Logistics -- Supply Chain Information Flow	船舶及び海洋技術－洋上風力エネルギー－ロジスティクス－サプライチェーン情報フロー	洋上風力エネルギー施設の建設時又は保守時における構成部品のサプライヤーから建設サイトまでの物理的移動を制御するためのメッセージの内容及びフォーマットを取り纏めるもの。	2015.12.01	—
TC8	ISO 30000:2009	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Specifications for management systems for safe and environmentally sound ship recycling facilities	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメントシステム－安全で環境に優しいシップリサイクル施設のマネジメントシステムの仕様	国内基準及び国際基準に従って安全で環境に優しいシップリサイクル作業を実施するために必要な船舶のリサイクルマネジメントシステムの一連の手順、ポリシー及び目的についての要求事項を取り纏めたもの。	2009.03.15	—

TC8	ISO 30002:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Guidelines for selection of ship recyclers (and pro forma contract)	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメントシステム－シップリサイクル事業者選定のための指針(及び見積契約書)	船舶所有者に対するシップリサイクル施設選定の際の選定プロセスや契約フォーマット等の指針について取り纏めたもの。	2012.06.15	—
TC8	ISO 30003:2009	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Requirements for bodies providing audit and certification of ship recycling management	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメントシステム－シップリサイクルマネジメントシステムの監査及び認証を行う団体の要件	ISO30000の規定に沿ったシップリサイクルマネジメントシステムに係る監査及び認証業務を行う組織・団体への原則及び要求事項を取り纏めたもの。	2009.10.01.	—
TC8	ISO 30004:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Guidelines for the implementation of ISO 30000	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメントシステム－ISO 30000の実施のための指針	ISO 30000の原理・原則を解説するとともに各要求項目の趣旨、典型的インプット、プロセスと典型的アウトプットについて記述し、ISO 30000の包括的な指針を取り纏めたもの。	2012.07.15.	—
TC8	ISO 30005:2012	Ships and marine technology -- Ship recycling management systems -- Information control for hazardous materials in the manufacturing chain of shipbuilding and ship operations	船舶及び海洋技術－シップリサイクルマネジメントシステム－造船の製造チェーン及び船舶運航時における有害物質の情報管理	シップリサイクル条約の規定に適合した有効かつ標準化された矛盾のない方法で有害物質に係る情報を管理、伝達、維持するための指針について取り纏めたもの。	2012.05.15.	—

TC8	ISO 30006:2010	Ship recycling management systems -- Diagrams to show the location of hazardous materials onboard ships	シップリサイクルマネジメントシステム－船上に存在する有害物質の場所を示す図表	シップリサイクル条約で義務付けられている有害物質一覧表(インベントリ)に関するシップリサイクル業者の理解を助けることとなる船上に存在する有害物質の場所を示す図表に係る要求事項を取り纏めたもの。【日本主導】	2010.12.15.	—
TC8	ISO 30007:2010	Ships and marine technology -- Measures to prevent asbestos emission and exposure during ship recycling	船舶及び海洋技術－シップリサイクル時のアスベスト飛散と曝露防止対策	シップリサイクルの際に船舶に使用されているアスベストの発じんを抑制して、一般環境への飛散及び作業者の曝露を防ぐための有効な方法について取り纏めたもの。【日本主導】	2010.12.01.	—